

- 問1 縄文土器と比べて薄くて硬いという特徴があり、弥生時代に使われるようになった土器は何ですか。
- 問2 645年に中大兄皇子や中臣鎌足らが蘇我氏をたおし、天皇を中心とする国づくりを始めた政治の改革を何と
いいますか。
- 問3 大和朝廷は、どのような人々が連合してつくった、強大な力をもつ国ですか。
- 問4 寝殿造は、どのような人たちが住んだ大きなやしきの建築様式ですか。
- 問5 平安時代にえがかれた「大和絵」は、どのようなものを題材にしていますか。
- 問6 古墳の内部にある石室には、遺体と一緒にどのようなものが納められましたか。
- 問7 群馬県で発見された「岩宿遺跡」は、日本の歴史の区分において、何時代の遺跡ですか。
- 問8 古墳時代に大和朝廷の王であった「大王」は、のちにどのような立場の人にあたりますか。
- 問9 聖徳太子らが定めた冠位十二階は、それまでの家柄にとらわれず、どのようなことを基準にして役人を取り
立てるためのしくみですか。
- 問10 603年に定められた、家柄に関係なく、能力や功績のある人を役人にとりたてるための12段階の位のしくみ
を何といいますか。
- 問11 奈良時代の役所や遺跡からたくさん見つかった、荷物につけられた「木の札」のことを何といいます
か。
- 問12 奈良時代につくられた、日本で最も古いとされる和歌集の名前は何かですか。
- 問13 都の貴族から、地方の政治を任された地方の役人のことを何といいますか。
- 問14 邪馬台国の女王である卑弥呼が、中国の魏に使いを送ったことによって授けられたものは何かですか。
- 問15 平安時代を代表する随筆（ずいひつ）である「枕草子」を書いた人物はだれですか。
- 問16 平清盛が平氏の守り神としてあつく信仰した、広島県廿日市市にある世界遺産に登録されている神社はどこ
ですか。
- 問17 石を打ちかいてつくった石器で、旧石器時代に使われていたものは何かですか。
- 問18 青森県にある三内丸山遺跡は、どのような遺跡ですか。
- 問19 聖武天皇が東大寺に巨大な大仏をまつた、一番の目的は何だと考えられますか。
- 問20 縄文時代に作られた、土で作られた人形のことを何といいますか。
- 問21 古墳時代に、大和朝廷を率いていた王のことを何とよびますか。
- 問22 天皇を助けて政治を行う役職のことで、推古天皇のときに聖徳太子が就いたものは何かですか。
- 問23 国風文化は、どのような人々を中心に生まれた、優美ではなやかな日本風の文化ですか。
- 問24 昔の税制度である「租」が、当時の国にとってどのような役割を果たしていたといえますか。

答え合わせ・解説 No.6

問1	答え 弥生土器	弥生時代に使われるようになった、縄文土器よりも薄くて硬い土器を弥生土器といいます。
問2	答え 大化の改新	645年に中大兄皇子や中臣鎌足らが始めた、天皇中心の国づくりを目指す政治の改革を大化の改新といいます。
問3	答え 豪族たち	大和朝廷は、奈良盆地を中心とする大和地方の「豪族」とよばれる有力な人々が連合してつくりました。
問4	答え 貴族	寝殿造は、平安時代の貴族が住むための大きなやしきの建築様式です。
問5	答え 日本の自然	大和絵は、日本の自然を題材にして、貴族のやしきのびょうぶやふすまなどにえがかれました。
問6	答え 鏡や剣、勾玉	石室には、亡くなった人の遺体とともに、鏡や剣、勾玉などが一緒に納められました。
問7	答え 旧石器時代	岩宿遺跡は、打製石器などが発見された、旧石器時代の遺跡です。
問8	答え 天皇	大和朝廷の王である「大王」は、のちの「天皇」にあたる立場の人です。
問9	答え 個人の能力や功績	冠位十二階は、生まれた家柄に関係なく、本人の能力や仕事での功績（がんばりや成果）を基準にして役人を取り立てるための制度です。
問10	答え 冠位十二階	603年に定められた、家柄にとらわれず能力や功績のある人を役人に採用するための12段階の位の制度を「冠位十二階」といいます。
問11	答え 木簡	木に文字を書いて記録する道具を「木簡（もっかん）」といいます。当時はまだ紙がとても貴重で高価だったため、荷物の送り主や中身を書くために木片が使われていました。この木簡のおかげで、当時の人たちがどのような生活をしていたのかを詳しく知ることができません。
問12	答え 万葉集	万葉集は、奈良時代につくられた日本最古（最も古い）の和歌集です。
問13	答え 国司	都の貴族から地方の政治を任された地方の役人のことを国司といいます。
問14	答え 倭王の称号や金印	卑弥呼は中国の魏に使いを送り、交流の証しとして倭王の称号や金印などを授けられました。
問15	答え 清少納言	「枕草子」は、平安時代に清少納言によって書かれた作品です。
問16	答え 厳島神社	広島県廿日市市にある厳島神社は、平清盛が平氏の守り神としてあつく信仰したことで知られる世界遺産です。
問17	答え 打製石器	石を打ちかいてつくった石器を打製石器と呼び、旧石器時代に使われていました。
問18	答え 縄文時代の建物の跡が発見された遺跡	三内丸山遺跡は、青森県にある縄文時代の建物の跡が発見された遺跡です。
問19	答え 仏教の力で国を平和に守るため	当時の日本は、病気やききんなどが続き、社会が不安定でした。聖武天皇は、仏教の教えを大切に、お寺や大仏を建てることで、仏様の力によって国を平穏で幸せな場所にしようと強く願ったのです。
問20	答え 土偶	縄文時代に土で作られた人形のことを土偶といいます。
問21	答え 大王	古墳時代に大和朝廷をまとめていた王は「大王（おおきみ）」とよばれていました。
問22	答え 摂政	天皇を助けて政治を行う役職を摂政と呼び、推古天皇のときに聖徳太子がこの役職に就きました。

問23 **答え**
都の貴族

国風文化は、藤原氏が栄えたころに都の貴族を中心に生まれた文化です。

問24 **答え**
国が使うお米を集めて財政を支える仕組み

「租」は農民が苦労して育てた稲の収穫高から納められるものでした。当時の国は、集められた大量の稲を国家の財政を支える大切な資源として活用し、国としての仕組みを整えていました。

- 問1 11世紀前半に、子の頼通とともに藤原氏の最も栄えた時代を築いた人物は誰ですか。
- 問2 大和朝廷は、どのような人々が連合してつくった、強大な力をもつ国ですか。
- 問3 聖徳太子たちが、中国の進んだ文化や学問、政治のしくみを取り入れるために、小野妹子らを送った使節を何といいますか。
- 問4 日本に旧石器時代があったことを示すきっかけとなった、群馬県にある遺跡の名前は何かですか。
- 問5 縄のようなもようがあり、食べ物を煮たり、たくわえたりするために使われた、縄文時代の道具は何ですか。
- 問6 磨製石器が使われるようになったのは、日本の歴史のどの時代ですか。
- 問7 藤原氏が栄えたころに、都の貴族を中心に生まれた、優美ではなやかな日本風の文化を何といいますか。
- 問8 自分の土地や財産を守るために、集団で武装するようになった豪族や有力な農民などから始まった人々を何と呼びますか。
- 問9 645年に中大兄皇子や中臣鎌足らが蘇我氏をたおし、天皇を中心とする国づくりを始めた政治の改革を何といいますか。
- 問10 奈良時代の人々が、荷物などのメモ書きに紙ではなく「木」を使っていた主な理由は何だと考えられますか。
- 問11 平安時代に、貴族が住んだ大きなやしきの建築様式を何といいますか。
- 問12 邪馬台国の女王で、人々をひきつける不思議な力をもち、中国の魏に使いを送って金印などを授けられたのはだれですか。
- 問13 昔の日本で、王や豪族などの有力者が、自分の大きな力や広いつながりをあらわすために作った、とても大きな墓のことを何といいますか。
- 問14 奈良時代に、聖武天皇が大切にしていた品物や、当時の貴重な宝物を守るために、東大寺の境内に建てられた特別な「倉」のことを何といいますか。
- 問15 中大兄皇子とともに蘇我氏をたおし、大化の改新を始めた人物はだれですか。
- 問16 十七条の憲法は、どのようなことを示すために定められたきまりですか。
- 問17 603年に定められた、家柄に関係なく、能力や功績のある人を役人にとりたてるための12段階の位のしくみを何といいますか。
- 問18 打製石器が使われていたのは、何という時代ですか。
- 問19 四角形と円形を組み合わせた形をした、古墳時代につくられたお墓を何といいますか。
- 問20 日本で最初の本格的な都である藤原京は、どこの国の都にならってつくられましたか。
- 問21 聖徳太子が「摂政」という役職に就いて、政治を助けた天皇は誰ですか。
- 問22 鑑真が命がけで日本に来た目的は、主に何をするためだったのでしょうか。

答え合わせ・解説 No.7

問1	答え 藤原道長	11世紀前半に、子の頼通とともに藤原氏の最も栄えた時代を築いたのは藤原道長です。
問2	答え 豪族たち	大和朝廷は、奈良盆地を中心とする大和地方の「豪族」とよばれる有力な人々が連合してつくりました。
問3	答え 遣隋使	中国の「隋」という国に送られた使節なので、遣隋使といいます。小野妹子らが代表として送られました。
問4	答え 岩宿遺跡	群馬県にある岩宿遺跡は、日本における旧石器時代の存在を明らかにした重要な遺跡です。
問5	答え 縄文土器	縄のもようがある土器のことで、煮炊きをしたり、食物をたくわえたりするのに使われました。
問6	答え 縄文時代	磨製石器は、石をみがいてつくられた石器のことで、縄文時代から使われ始めました。
問7	答え 国風文化	藤原氏が栄えたころに都の貴族を中心に生まれた、優美ではなやかな日本風の文化を国風文化といいます。
問8	答え 武士	自分の土地や財産を守るために武装した豪族や有力な農民が、武士の始まりです。
問9	答え 大化の改新	645年に中大兄皇子や中臣鎌足らが始めた、天皇中心の国づくりを目指す政治の改革を大化の改新といいます。
問10	答え 紙はとても貴重で高価なものだったから	奈良時代、紙は作るのに大変な手間がかかるため、とても貴重で高価なものでした。そのため、役所の事務手続きや荷物の送り状といった日常の記録には、手に入りやすく丈夫な木片（木簡）が広く使われていたのです。
問11	答え 寝殿造	平安時代に貴族が住んだ、大きなやしきの建築様式を寝殿造といいます。
問12	答え 卑弥呼	卑弥呼は邪馬台国を治めた女王で、不思議な力で人々をまとめ、中国の魏から倭王の称号や金印を授けられました。
問13	答え 古墳	古墳は、当時の支配者が自分の権力を示すために築いた巨大な墓のことで、亡くなった有力者の力を示すために、とても長い時間をかけて作られました。住居（家）ではありません。
問14	答え 正倉院	聖武天皇が使っていた品々や、当時の日本と外国との交流を示す大切な宝物を長く守り続けるために建てられた施設です。今でいう博物館のような役割を果たしており、奈良時代の文化を知るための重要な手がかりとなっています。
問15	答え 中臣鎌足	中臣鎌足は、中大兄皇子と協力して蘇我氏をたおし、大化の改新という新しい国づくりを始めた人物です。
問16	答え 政治を行う役人の心構え	十七条の憲法は、一般の人々に向けてではなく、政治を行う役人に対してその心構えを示すために定められました。
問17	答え 冠位十二階	603年に定められた、家柄にとらわれず能力や功績のある人を役人に採用するための12段階の位の制度を「冠位十二階」といいます。
問18	答え 旧石器時代	打製石器は、旧石器時代に使われていた石器です。
問19	答え 前方後円墳	四角形と円形を組み合わせた特徴的な形をした古墳を、前方後円墳といいます。
問20	答え 唐（中国）	藤原京は、当時の中国である「唐」の都の仕組みを取り入れてつくられました。
問21	答え 推古天皇	聖徳太子は、推古天皇を助けるために摂政という役職に就いて政治を行いました。
問22	答え 仏教の正しいルールや教えを広めるため	当時の日本には、仏教の教えを正しく守るための「戒律（かいりつ）」というルールがしっかりと整っていませんでした。鑑真は、仏教を正しく学びたいという日本の僧侶たちの願いに応じて、厳しいルールを正しく伝えるために来日しました。

- 問1 古墳の中に、武器や祭りの道具などが一緒に納められたのはなぜだと考えられていますか。
- 問2 縄文時代の人々が、食べ終わった貝がらや動物の骨などを捨てた場所のことを何といいますか。
- 問3 遣唐使が唐（中国）へ送られた目的は何ですか。
- 問4 寝殿造は、どのような人たちが住んだ大きなやしきの建築様式ですか。
- 問5 打製石器が使われていたのは、何という時代ですか。
- 問6 青森県にある三内丸山遺跡は、どのような遺跡ですか。
- 問7 鑑真が日本で仏教を教えるために建てた、奈良にあるお寺の名前は何でしょう。
- 問8 794年に、不安定だった政治を立て直すために京都につくられた都は何ですか。
- 問9 平安時代にえがかれた「大和絵」は、どのようなものを題材にしていますか。
- 問10 藤原道長とともに、11世紀前半に藤原氏の最も栄えた時代を築いた、道長の子は誰ですか。
- 問11 昔の大きな墓である「古墳」のまわりに立て並べられた、土で作られた人形や家の形をしたものを何といいますか。
- 問12 中大兄皇子らが大化の改新を始めたのは、どのような国づくりを目指すためですか。
- 問13 聖徳太子は、どのような豪族と協力して天皇中心の新しい国づくりを進めようとしたか。
- 問14 743年に、聖武天皇が仏教の力で国を守るためにつくることを命じた、大きな仏像は何ですか。
- 問15 8世紀の初めに、今の奈良県につくられた新しい都の名前は何ですか。
- 問16 大昔の日本で、天皇を中心とした国づくりを進めるために、中国の「唐」の制度をお手本にしてつくられた法律を何といいますか。
- 問17 古墳時代とは、どのような時代ですか。
- 問18 今から1万年以上前の、日本が大陸と陸続きだった時代を何といいますか。
- 問19 平清盛が武士として初めて就任した「太政大臣」とは、どのような役職ですか。
- 問20 武士たちが、力の強い者をかしらにしてつくった集団のことを何といいますか。
- 問21 縄文時代の人々が暮らしていた、地面をほって柱を立ててつくった住居を何といいますか。
- 問22 7世紀後半から8世紀初めにかけて、日本が「律令」という法律を整えた一番の目的は何ですか。
- 問23 1159年におこった平治の乱で平清盛を中心とする平氏が勝利したことにより、平氏はだれにかわって政治の実権をにぎるきっかけをつくりましたか。
- 問24 聖徳太子が小野妹子らを遣隋使として中国に送ったのは、どのような目的のためですか。
- 問25 清少納言によって書かれた、平安時代を代表する随筆（ずいひつ）は何ですか。
- 問26 鑑真が命がけで日本に来た目的は、主に何をするためだったのでしょうか。

答え合わせ・解説 No.8

問1	答え 亡くなった人の権力を示すため	古墳に納められた武器や道具は「副葬品」と呼ばれます。これらは、亡くなった人が生前どれほど力を持っていたかや、どのような役割を担っていたかを示すために、豪華なものを選びました。あくまで有力者の権威をあらわすためのものです。
問2	答え 貝塚	縄文時代の人々が、貝がらや動物の骨などのゴミを捨てた跡のことを貝塚といいます。
問3	答え 政治や大陸の文化を学ぶため	遣唐使は、唐の優れた政治の仕組みや大陸の進んだ文化を日本に取り入れて学ぶために送られました。
問4	答え 貴族	寝殿造は、平安時代の貴族が住むための大きなやしきの建築様式です。
問5	答え 旧石器時代	打製石器は、旧石器時代に使われていた石器です。
問6	答え 縄文時代の建物の跡が発見された遺跡	三内丸山遺跡は、青森県にある縄文時代の建物の跡が発見された遺跡です。
問7	答え 唐招提寺	鑑真は日本にやってきた後、弟子たちと一緒に唐招提寺を建てました。このお寺は、当時の仏教を学ぶための大切な拠点となり、今の時代までその文化が受け継がれています。
問8	答え 平安京	794年に、不安定だった政治を立て直すために京都につくられた都を平安京といいます。
問9	答え 日本の自然	大和絵は、日本の自然を題材にして、貴族のやしきのびょうぶやふすまなどにえがかれました。
問10	答え 頼通	藤原道長は、子の頼通とともに藤原氏の最も栄えた時代を築きました。
問11	答え 埴輪	古墳の周囲に立て並べられた素焼きの土製品は「埴輪（はにわ）」と呼ばれます。土偶は主に縄文時代に作られたもので、古墳時代に作られた埴輪とは時代が異なります。
問12	答え 天皇を中心とする国づくり	大化の改新は、一部の豪族ではなく、天皇を中心とした国づくりを進めるために始められた改革です。
問13	答え 蘇我氏	聖徳太子は、当時の有力な豪族であった蘇我氏と協力して、新しい国づくりを進めました。
問14	答え 東大寺の大仏	743年に聖武天皇の命令によってつくられた、仏教の力で国を守るための大きな仏像は、東大寺の大仏です。
問15	答え 平城京	710年に奈良（当時の名前は平城）に移された都です。平安京はその後、京都（平安）に移された都であり、長安は中国の唐の都で、平城京をつくる際のモデルとされました。
問16	答え 律令	当時の日本は、中国の進んだ文化や制度を積極的に取り入れていました。中でも、唐の国づくりを参考に整備された法律を「律令」と呼びます。この法律によって、天皇を中心に全国をまとめる政治のしくみが整えられました。
問17	答え 全国各地に古墳がつくられた時代	古墳時代は、全国各地に古墳と呼ばれる大きなお墓がつくられた時代のことです。
問18	答え 旧石器時代	今から1万年以上前で、日本が大陸と陸続きだった時代を旧石器時代といいます。
問19	答え 朝廷の最高位の役職	太政大臣は朝廷における最も高い位の役職で、平清盛は武士の身分からこの地位にのぼりつめました。
問20	答え 武士団	武士たちが力の強い者をかしらにしてつくった集団を「武士団」といいます。
問21	答え 竪穴住居	縄文時代の人々は、地面をほって柱を立ててつくった「竪穴住居」に暮らしていました。
問22	答え 天皇を中心とした強い国づくりを進めるため	当時の日本は、唐（中国）などの進んだ国に対抗するため、国のきまり（律令）を全国で統一し、天皇を中心として国全体をまとめる仕組み（中央集権国家）を目指しました。律令は、税金の集め方や役人の働き方などを定めた大切なルールブックでした。

問23	答え 藤原氏	平治の乱で勝利した平氏は、それまで政治を行っていた藤原氏にかわって、新しく政治の実権をにぎるようになりました。
問24	答え 中国の文化や学問、政治のしくみを取り入れるため	遣隋使は、当時の中国（隋）の進んだ文化や学問、政治のしくみを日本に学んで取り入れるために送られました。
問25	答え 枕草子	清少納言によって書かれた、平安時代を代表する随筆は「枕草子」です。
問26	答え 仏教の正しいルールや教えを広めるため	当時の日本には、仏教の教えを正しく守るための「戒律（かいりつ）」というルールがしつかりと整っていませんでした。鑑真は、仏教を正しく学びたいという日本の僧侶たちの願いに応じて、厳しいルールを正しく伝えるために来日しました。
